全国市議会旬報

ぜんこくしぎかいじゅんぽう

第 2281 号

令和6年（2024年） 11月5日

毎月3回5の日に発行
発行　全国市議会議長会

〒102-0093
東京都千代田区平河町2-4-2
代表 TEL　03（3262）5234
旬報 TEL　03（3262）5237
発行人　宮地　毅
https://www.si-gichokai.jp

議長会HP

令和 6.10.9▸10　第19回 全国市議会議長会 研究フォーラム in 盛岡

大会テーマ

主権者教育の新たな展開

研究フォーラムの参加者を歓迎する盛岡市議会議員等関係者一同

第19回全国市議会議長会研究フォーラムin盛岡が10月9、10両日、盛岡市のトーサイクラシックホール岩手で開催された。全国から2365人の市区議会議員が出席し、「主権者教育の新たな展開」をテーマに活発な議論が繰り広げられた。

近年、地方議会は、投票率の低下や無投票当選の増加など、議会への関心の低下や議員のなり手不足が深刻化しており、今後は、地方自治法の改正を踏まえ、女性や若者など多様な人材の議会への参画を一層進めていくことが必要になっている。

そのためには、各地方議会が自ら積極的に更なる改革に努め議会の活性化を図り、議会の重要な役割について広く住民に理解が得られるよう取り組む必要がある。

将来の地方自治を担うこどもたちに対する主権者教育の取組は重要で、今後は、各地方議会の主権者教育に係る好事例の横展開を一層推進するとともに、議会に対する関心を高め、理解を深める主権者教育を国民運動として取り組む必要がある。

本フォーラムでは、「主権者教育の新たな展開」をテーマに各地方議会の主権者教育に係る事例報告など、改めて地方議会の課題を整理した上で、その解決に向けた今後の方向性を展望した。

坊 会長（神戸市）

冒頭のあいさつで坊恭寿会長（神戸市）は、フォーラム開催の準備に尽力した盛岡市議会関係各位に御礼の意を表すとともに「二日間にわたる議論を参考に本会としても地方議会に対する住民の理解と関心を深めるため、主権者教育を一層推進するとともに、労働法制の見直し等、会社員が立候補しやすい環境の整備、とりわけ厚生年金制度への加入実現についても積極的に取り組んで参りたい」と述べた。

遠藤議長（盛岡市）

開催地代表あいさつに立った遠藤政幸盛岡市議会議長、来賓の内舘茂盛岡市長は、地元開催に歓迎の意を表すとともに「本研究フォーラムは全国各地の市区議会議員の皆様が一堂に会する貴重な機会。地域社会の発展や住民福祉の向上のため、活発な意見交換と討議の場となることを大いに期待している」と述べた。

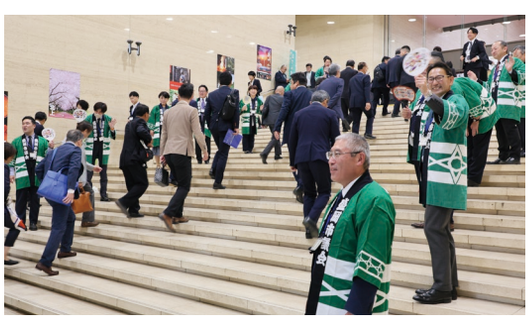
内舘市長（盛岡市）

歩いて楽しむまち おでんせ!!盛岡!!

第19回研究フォーラムin盛岡の初日、会場となったトーサイクラシックホール岩手（岩手県民会館）では、法被姿の盛岡市議が会場入りする全国の議員たちを出迎えた。

盛岡市は、古くは盛岡藩、別名南部藩20万石の城下町として栄え、400年余りの歴史を有し、市内には東北三名城に数えられた四季を彩る盛岡城跡公園や盛岡八幡宮などの神社仏閣をはじめ、東京駅のモデルとなった国重要文化財に指定されている岩手銀行赤レンガ館（旧岩手銀行本店・写真下掲）など歴史的建造物が点在する。

市内から仰ぎ見る標高2038㍍を誇る雄大な岩手山を望む市街地からの景色、市の中心部を流れる清流「中津川」など、豊かな緑と清らかな水に囲まれ、風光明媚な自然と歴史的な建物が織りなす街並みが来訪者を魅了する。2023年には、米ニューヨークタイムズ紙の「今年行くべき52か所」の一つとして、ロンドンに次ぐ世界で2番目に選出された。



開会前に、竹田浩久前盛岡市議会議長が盛岡市への来訪を歓迎するとともに、東北を代表するお祭りの一つの「盛岡さんさ踊り」を紹介。盛岡の夏を彩る華麗な踊りと力強い響きの「さんさ太鼓」でフォーラム参加者をもてなした。

竹田前議長（盛岡市）

続いて、盛岡市議全員が登壇し、盛岡の魅力をそれぞれ紹介。東北市議会議長会や岩手県下の市議会議長も駆け付け、東北ワンチームでフォーラム参加者を歓迎した。

遠藤議長は「是非、歩いて楽しむ街、盛岡をご堪能いただければ幸い」と述べ、映像を交えながら歩いて楽しめるコンパクトシティ「盛岡」を紹介した。

盛岡は麺の都。「盛岡三大麺」の「わんこそば」、「盛岡冷麺」、「じゃじゃ麺」など、「盛岡ブランド」を誇る麺を楽しめるお店が市内のあちこちに沢山存在する。

最後に盛岡市議が「全国からお集りの皆さん！ようこそ盛岡へ！皆さん、盛岡で食べて、歩いて、散策を楽しんでください」と呼びかけた。

地方議会が行う主権者教育
現状・課題　方向性を議論

開会初日は、坊恭寿会長（神戸市会議長）が主催者あいさつを述べた後、衆議院議員の菅義偉氏（第99代内閣総理大臣）のビデオメッセージ（3面）に続いて、「地方議会の課題と主権者教育」をテーマにパネルディスカッションが行われた。

パネルディスカッションでは、静岡大学人文社会科学部法学科教授の井柳美紀氏がコーディネーターを務め、今回のテーマに詳しい有識者の方々が地方議会の現状・課題、取り組むべき方向性について、それぞれの専門分野から発言し、多角的な視点に立って議論を掘り下げた（4～6面）。

2日目の課題討議では、東北大学大学院情報科学研究科准教授の河村和徳氏がコーディネーターを務め、地方議会が行う主権者教育について具体的な取組を行ったパネリストが取組の内容や成果、課題を報告し、各議会・参加者に向けて今後の取組の参考となる情報交換を行った（7～9面）。

ビデオメッセージ

衆議院議員（第99代内閣総理大臣）
菅　　義偉

1948年秋田県生まれ。1973年法政大学法学部卒業。衆議院議員秘書、横浜市議2期を経て、1996年衆議院議員選挙で初当選（9期連続小選挙区当選）。2006年9月総務大臣に就任し、「ふるさと納税」を創設。その後、自民党選挙対策総局長、自民党組織運動本部長、自民党幹事長代行等を経て、2012年12月第2次安倍内閣の内閣官房長官に就任。他に国家安全保障強化担当大臣や沖縄基地負担軽減担当大臣、拉致問題担当大臣を務める。2019年4月1日に新元号「令和」を発表。2020年9月自由民主党総裁、第99代内閣総理大臣に就任。

皆さん、こんにちは。衆議院議員の菅義偉です。第19回全国市議会議長会研究フォーラムのご開催、誠におめでとうございます。

全国から議長、市議会議員が一堂に会し、各地域の政策課題について情報交換を行う機会があるというのは大変素晴らしいことです。

私も講演させていただく予定でしたが、まさに衆議院の解散が予定されている日となってしまい、どうしても伺うことができませんのでビデオメッセージをお贈りします。

日頃より高い志と強いリーダーシップで、地域経済の発展や充実した市民生活に寄与されている皆様に心から敬意を表します。

私も横浜市議会議員を2期務めた後、国政に挑戦し、今日に至りますが、地方議員時代の経験や人脈が私の政治家としての原点であります。

地方の活力なくして日本の活力なしと、その想いのもと国会議員として、地方の経済を元気にする、地方の所得を増やす政策をライフワークとして取り組んできました。一つは、ふるさと納税。地方から都会に出てきている人は、自分を育ててくれたふるさとに貢献をしたいという想いを抱えているに違いないと思い、総務大臣のときに温め続けていたふるさと納税を創設しました、2008年度にスタートした当時は、年間81億円の利用でしたが、制度を見直し、ワンストップ手続きができるようにした結果、昨年度初めて1兆円を超えました。ふるさと納税を利用して自治体が創意工夫し、税収が増えた、新しい産業が生まれたなど、喜びの声が広がっております。

次にインバウンド。安倍政権で観光立国を掲げて取り組み、政権発足前836万人だったインバウンドは、コロナ前3200万人にまで増加し、消費も1兆800億円から4兆8000億円にまでなりました。コロナの影響で一時は落ち込みましたが、昨年は2500万人まで回復し、今年は過去最高を超える3500万人に上る見込みです。その消費額も円安を伴い、昨年5兆3000億円を記録し、今年は7兆2000億円とも言われています。インバウンドが増加した結果、二度と上がることがないと言われていた地方の地価が31年ぶりに上昇に転じました。インバウンドは日本経済を支える大きな柱となっています。そして農林水産品の輸出も地方の稼ぐ力に貢献しています。安倍政権で輸出本部を設置するなど強力に推進した結果、4500億円だった輸出額は、昨年、1兆4547億円にまで増えました。インバウンドとの相乗効果で日本の農産品の魅力が世界各国に広がっています。

国としては、こうした取り組みを進めていますが、実際にそれぞれの地域の魅力を引き出し、活力を生み出していくのは、本日会場におられます議長を先頭とした地方議員の皆さんです。

引き続き、それぞれの地域を前に進めていただくためにご尽力いただければと思います。私も全力で取り組んでまいります。

結びに、今回を通じて関係各位の絆が一層深まるとともに、貴会の益々のご発展とご列席の皆様のご健勝を祈念をしまして私の挨拶といたします。

パネルディスカッション　第1日目 10月9日（水）

「地方議会の課題と主権者教育」（概要）

コーディネーター

井柳 美紀 氏　静岡大学人文社会科学部法学科教授

パネリスト

土山希美枝 氏　法政大学法学部教授
越智 大貴 氏　㈱WONDER EDUCATION代表理事
渡辺 嘉久 氏　読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局
遠藤 政幸 氏　盛岡市議会議長

（本文中は敬称略）

※図表は、会合中の資料をもとに作成

井柳静岡大教授

井柳　昨年の地方自治法の改正で地方議会の役割、議員の職務が明確化されたが、地方議会は投票率の低下や無投票当選の増加、性別や年齢など議員構成の偏りなど課題を抱えている。このような中、議長会では議会に対する関心を高め、理解を深める主権者教育を一層推進することや出前講座や模擬議会など議会自らが主体的に行う主権者教育の取組に対する支援を求める決議を行った。

主権者教育の歴史をみると、昭和44年の文部省の高等学校向けの政治的教養と政治的活動に関する通知では学園紛争などがあった背景から、現実の具体的な政治というものを扱う際は慎重に取り扱うこととされていた。しかし、選挙権年齢が18歳に引き下げられた平成27年の文科省通知で現実の具体的な政治的事象も取り扱い、生徒が国民投票の投票権や選挙権を有する者として自らの判断で権利を行使することができるよう指導を行うことが重要との通知に変わっている。

若者や多くの有権者に地方議会を知ってもらうために、地方議会が行う主権者教育をどのように展開するべきか。

土山　実践的教育の場を提供することが、議会が行う主権者教育の基本スタンスではないか。若き市民の参加、将来市民の議会参加の機会を得ることがポイントで、大人ではない市民と語り合うことで議会と議員がエンパワメントされ、こども・若者・教育機関にとっても学びという機会にすることが目指すべきところではないか。

越智　若者は政治や社会をどのように捉えているのか。日本財団による「18歳意識調査（2024）」結果によると、「今の自国の政治に関心がある」との質問で「ある・どちらかといえばある」との回答が56・6％を占め、政治や選挙に興味がないわけではない。また「自分の行動で国や社会を変えられると思う」との意識では、諸外国では6～8割超の中、日本は45・8％と諸外国と比べて低いが、一方で64・3％の若者が「国や社会に役立つことをしたいと思う」と回答している。

越智W・E代表理事

このことから「政治に関心がないから選挙に行かないというより、どうせ何も変わらない」との若者の意識傾向が課題としてあるのではないか。

学校では「選挙に行こう」との主権者教育が強く、公職選挙法など選挙制度の話が中心。政治的中立の観点から、誰をどう選んでいけば良いという視点に立ったテーマを扱うのは困難な状況。

学校では、有利な内申点を取るために生徒会へ参加する現象もあり、主体的に学校を良くしたいとの考えの生徒が減っている。自分たちの力や地域全体で政治や社会を変えるとの力が弱くなってきている背景がある中で、この状況を変えるため、議員と若者とのコミュニケーションを活性化し、交流の場を増やして「こども・若者に何かしていく」との視点ではなく、「こども・若者と何かしていく」という視点が重要ではないか。

渡辺　越智さんが行っている主権者教育を取材した際、松山市内の私立女子高校で初めて授業を受け持つ機会があった。その際、生徒たちに「選挙に行く人はいるか」と問いかけたが、35人中手を挙げたのはたった1人だったので、残りの34人に「なぜ、行かないの」か聞いたところ、「政治のことを知らないので、私が誤った判断で投票して、その結果、世の中が変な方向に行ったら嫌だから」との意見があった。若い人たちは政治に関心がないからだろうなと思い込んでいたが、実は政治に関心がないわけではなく、どうやって政治を知り、政治と繋がれば良いか、分からないだけではないのかと感じた。

遠藤　当市議会では、選挙権年齢が18歳に引き下げられた公職選挙法改正の折、当時の議長から議会運営委員会で盛岡市議会による主権者教育として▽高校生が議会を経験する▽議員にとっても様々な刺激を得る機会―として、高校生議会の開催を検討して欲しいとの提案があり、平成29年に第1回を開催した。以来、令和2年（コロナ感染症拡大防止）を除いて4回の高校生議会を開催。3

遠藤議長（盛岡市）

つの柱を掲げ「次代を担う高校生が選挙及び政治並びに身近な地方行政への関心を高めること」を目的として取り組んでいる（**左図**）。

住み続けたくなるまちをテーマに市政の課題を事前学習し、それぞれが意見を発表する中で議員も高校生と意見交換を通して一緒に解決策を検討して提言にまとめている。終了後には、高校生から▽市政に関心を持った▽議会の役割が理解できた―との感想が、教師からは高校生議会を通じて生徒が議会に関心を持ち、格段に理解を深めたとの感想が寄せられている。

井柳　次に、「地方議会の主権者教育」と敢えて「地方議会」をつける場合、どの様に進めていくべきかとの議論を掘り下げたい。国政選挙や首長選挙における主権者教育とは違ったやり方が地方議会の主権者教育には必要になるのではないか。地方議会の主権者教育において、何が重要なのかということが一つのポイント。主権者教育との観点から、議会にはこういうことをやって欲しいとの提言を。

私は統一地方選挙の実施時期をもう少し、学校の教育現場が授業しやすい時期と合わせられないかと思っている。

土山　市民との柔軟な話し合いの機会をつくることができるのは、行政よりも議会。議会は議論の場であるので、結論を出すこと以前に様々な意見を踏まえて、議会が応えていくことが重要。盛岡市議会では主権者教育の中で実際に話し合ってヒントをもらっているとのことだが、そのような場にすることだと思う。また、広報・広聴・報告など市民と行っている話し合いの機会を幅広い年齢層へ拡大することも重要。

土山法政大教授

正しい回答がない中で、自分たちの答えを出していく「自治の経験」が学校現場、社会の中でも非常に乏しい中、これらの経験を通じて一人一人の意見を尊重しつつ、議会としてどの様に考えるのかやり取りをして、一般質問などを行うことが市民参加の形として求められるのではないか。

遠藤　盛岡市議会では、高校生議会のほかに、若者に政治・選挙・地方行政への関心を高めてもらうことを目的として、学生との意見交換会「盛岡未来お出かけミーティング」を開催している。

議員が盛岡近郊（盛岡市、滝沢市）の大学に出向き学生と意見交換を行うもので、平成30年は「あなたが地域で大活躍するために」、令和４年は「盛岡市の20年後の未来」をテーマに学生と議員がメンバーを替えながらグループごとに対話を重ねるワールドカフェ方式で意見交換を行った。各会場では市議会が準備や運営を行い、議員が会の進行役、ファシリテーターを務めて開催している。

渡辺読売新聞記者

渡辺　二元代表制とか議会の在り方や議員は何をやっているのかなど学問的に教えることは、あまり意味をなさないのではないか。「議員さんは議場からまちへ出よう」と提言したい。先ほど、学校教育の現場に行ってはじめて高校生は私が考えていたような政治意識ではないことに気付いたように、やはり外に出て、色々な意見を聴くことが重要。

私は「未来を選択しよう」とのキーワードを掲げて出前授業を行っているが、これは盛岡市の隣町の矢巾町で教えてもらったこと。矢巾町は、地域の未来像「50年先の未来」を考えようと、フューチャーデザインの視点で、幅広い町民を募って定期的に意見交換を行い、喫緊の課題となっていた水道料金の値上げについて議論して解決していった。同じような取組は吹田市、京都市、宇治市、松本市など行政主導で行っている。これらの取組を議会が積極的に色々な市民を集めて、実際に意見を聴いて、議会として提案して実現すること。例えば高校生から「駐輪場が足りないので、どうにかならないか」との意見が出たとする。これを「駐輪場を作ろう」と議会から提案して実現することで、高校生たちは「変わった！」ということを体験できる。このような実践をやって欲しいと思う。

しかし、マンパワーが必要なので、自治体の規模によってできるできないではなく、全国共通でマニュアルを作り共有することで、実践事例を報告し合いながら進めれば良いのではないか。

井柳　駐輪場の問題など地域の事例を取り上げ

/// 盛岡市議会高校生議会の開催目的 ///

次代を担う高校生が選挙及び政治並びに身近な地方行政への関心を高めること

1 盛岡市議会として主権者教育に取り組むものであること
➡ 第1回から、盛岡市議会主催により開催。参加者は高校生と盛岡市議会議員

2 議会の役割を理解し、市の施策を身近に感じる機会であること
➡ 高校生が1日の行事を通じて、定例会の議案審査の流れを疑似的に体験

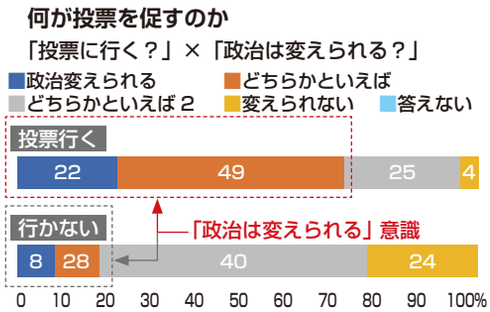
3 議員が高校生と直接交流する場であること
➡ 高校生と市議会議員が、市政の課題について意見交換し、提言をまとめる

られていたが、例えばドイツなど政治、シチズンシップ教育に熱心な国では、メディアが地域の課題などコンテンツを提供して、学校の先生が利用し易い環境もあるが、地域の課題や教材を使った授業などをやり易くする環境の整備は可能か。

渡辺　メディアは色々なデータを持っているので、枠組みをきちんと投げかけてもらえば検討すると思う。

越智　例えば、スポーツでも、ルールやマニュアルを学ぶだけでなく、実践でやってみないと楽しさはわからないと思う。実際に議場に足を運んでこどもたちが体験することはもちろん、実際にその話し合いによって結果が変わったり、変わるかもしれないという経験を小さい頃からどれだけ積めるかが大事で、こうした経験や感覚を掴んでいくことが、地方議会の主権者教育に求められているのではないか。

渡辺　私が行った授業の後に「今の国政に関心がありますか」と聞くと「ある、ある程度ある」との回答が60％を占め、「選挙があれば投票に行きますか」と聞くと82％が「行く」と答えている。これをクロス集計すると、「投票に行く」と答えた生徒は左図の赤枠のとおり、7割が「政治は変えられる」との意識を持っている。一方「行かない」と答えた生徒は4割弱しか政治は変えられると思っていない。つまり、自分の意見が活かされ、議会や行政がそれを実現してくれるとの体験をすることが投票に繋がる。学問的に知識を入れるのではなく、自分たちの意見で世の中は変えられるという経験を積むことが重要。

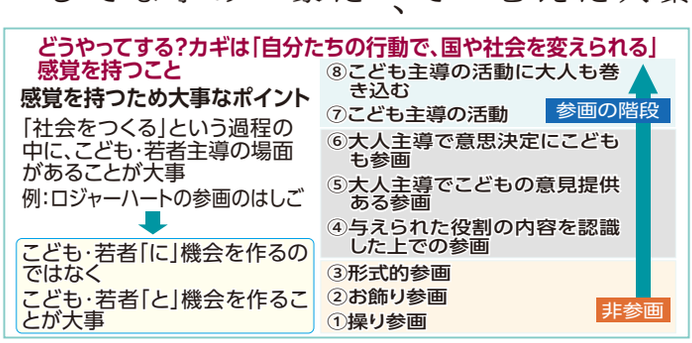


井柳　将来の有権者であるこどもだけでなく、地域の人の理解も重要だと思うので、大人を対象とした提言を。

越智　私たちは活動の中でこどもたちに「選挙に行こう」と促していない。イベントに参加してくれる小学生が「楽しい！また来たい」と思ってくれるのがゴール。一回のイベントで終わるのではなく、継続して続けられるような仕組みをつくることが重要。

　こども・若者「に」機会を作るのではなく、こども・若者「と」一緒に機会を作っていくことがキーワードではないか。

　去年、こども基本法が制定され、第11条に国及び地方公共団体はこども施策を策定し、評価するに当たっては、必ずこどもの意見などを反映させなければいけないと明記された。社会の変化に対応して、こども計画をつくるとき、こどもの意見を反映させること。また、アンケートだけではなく、こどもと一緒にワークショップで生の声を聞く機会を多く作っていく仕掛けができればいいのではないか。



渡辺　議会が行う主権者教育では、学校単位だけでなく、地域単位で世代も違った様々な職種や色々な人を集めて、地域としてのワークショップを開催していただきたい。例えば50年後の市を考えるワークショップなどを通じて出された意見を議会の提案で予算をつけて実現する。年代や立場によって求める政策は違うので、考えが違う人が一緒に意見交換することで、限られた予算の中でどれを優先するか。これこそ民主主義的なやり方を自然と身に付けられる。

遠藤　高校生議会を通じて感じたことは、若者が市政に関心を持ち、議会の役割を理解して、議員や政治を身近に感じてもらえたことがことが大きな成果。これらの取組が若者の社会参画や政治参画に繋がってくるのではないか。また、議員は若者との意見交換を通じて生の声を聴くことで刺激を受け、若者の考え方や視点の違いなどが得られたことが大きい。結果的に政策提言等に繋がればと期待している。

土山　地域社会の様々な争点を提起して、議論して、それに対して何らかの意思を形成することが議会が持つ政策の過程。その場を市民や若き市民にも開いていくことが重要。高校生議会、高校生モニターなどを通じて、例えば、駅前再開発に高校生からも話を聴き、様々な意見を踏まえて結論を出していく過程を見える化して、こどもも含めた様々な人の関わりを得ることが大切。

井柳　主権者教育というのは、まだそれほど確立した内容や方法があるわけではないというのも現状だと思う。これから地方議会の主権者教育をどのように進めていくべきか、まさにこれから作っていくものかと思う。

　パネルディスカッションの意見交換を通じて、これから進めていく上での一つの材料となればと思う。

課題討議　第2日目 10月10日(木)

「主権者教育の取組報告」(概要)

コーディネーター

河村 和徳 氏　東北大学大学院情報科学研究科准教授

事例報告者

白鳥 敏明 氏　伊那市議会前議長

諸岡　覚 氏　四日市市議会議員(第83代議長)

服部 香代 氏　山鹿市議会議長

(本文中は敬称略)

※図表は、会合中の資料をもとに作成

はじめに

河村東北大学准教授

河村　主権者教育は、民主主義の基盤を造るための重要な取組である。

しかし、主権者教育というと一方的に知識を教える形に陥ってしまうことがある。ただの授業ではなく参加して経験し、議会と直接接することができる場を作らなければならない。

様々な形で議会や一般の方々がもっと主権者教育の担い手になれば、より未来の有権者たちを育て、地域に愛着を持って参画する有権者を増やしていけるのではないか。

また、経済学者のアルバート・ハーシュマンによると「右肩下がりの地域や組織、そこの構成員の人たちは声を上げるか出て行くしかない」という。声を上げるとは、選挙で投票することで、出ていくとは都会へ行くこと。地域への愛着や自分たちの声が通ったという達成感があれば、都会に出ていかず地元に残って声を上げる選択肢を取るのだという。

つまり、主権者教育は、地域への愛着や想いを育む過程でもある。そこをご理解いただきたい。

主権者教育の取組事例紹介

白鳥前議長(伊那市)

伊那市「高校生の議会傍聴と意見交換」

白鳥　伊那市では平成30年の市議会議員選挙が無投票となったことで議員のなり手不足に危機感を抱き、議会改革の一環として高校生に議会を傍聴してもらい、意見交換をする取組を開始した。

意見交換の流れは、生徒代表から学校の探究の時間での取組を発表していただき、その後生徒と議員それぞれ3～4人ずつのグループに分かれて討議を行い、各グループの議員代表が討議の結果を発表する。そして最後は高校生に感想を述べていただく。

高校生からは「初めての経験だったので緊張したが、自分の意見を言うことができ、伊那市のこともよく知ることができた」「親身に話を聞いてもらえた上にアドバイスもいただけたので非常に良かった」と好意的な感想をいただき、中には「将来政治家になりたい」という非常に頼もしい感想もあった。議員からも「高校生が真剣に取り組む姿に感動した」「高校生の声を直接聞ける良い機会なので今後も開催していきたい」など積極的な意見が出た。

四日市市「出張意見交換会『ワイ！ワイ！GIKAI』」

諸岡　当市議会では、若者を対象に学校などへ出張形式で意見交換会を行う「ワイ！ワイ！GIKAI」を令和4年度から開催している。

これは従前からのシティミーティングや議会報告会の参加者の減少・固定化を受け、危機感を抱き、新たな取組として開始したもの。

当日の流れは、議員と生徒が3グループに分かれてグループディスカッションを行い、その議論の成果と感想を生徒から発表。後日、休会中の所管事務調査を開催し、テーマごとに生徒からの意見を整理し、今後の議会での議論にどう活用していくのかを確認した。

さらに後日、開催校の生徒が授業の一環で市議会を訪問、傍聴いただいた。これは当初想定していなかった嬉しい成果。

また、特別支援学校からも「ワイ！ワイ！

☑ 3グループに分かれて、それぞれのテーマについてグループディスカッション

☑ その後、各グループからディスカッションの内容と感想を発表

GIKAI」を実施してほしいという依頼があり、その際は言葉でのコミュニケーションが難しい生徒がいることに配慮し、投票方法についての動画を見たり、選挙ポスター作り体験などを行った。

　このように学校側の意向、または生徒の意見を尊重して様々な形式で開催しており、決まった形に捉われない取組を進めている。

　また、今年は初めての試みとして商工会議所青年部の社会人を対象に行う予定。今後も様々な層の若者との交流を図っていきたい。

諸岡元議長（四日市市）

　当市では高校生議会も実施しており、事前に議長の立候補を募って生徒たちの投票で議長を決めたり、委員会ごとにテーマ別の議論をするなど本格的な形式で行っている。最後は意見書が採決され、四日市市議会議長に提出される。

　最後に、本市議会では小中学生を対象とした取組として、「よっかいち市議会だより#（ハッシュタグ）こども号」を毎年7月初めに発行、市内の全小中学生に配布している。これは夏休みの自由研究などに活用してもらうため、イラストや写真を多用してわかりやすく議会を説明している。同時に、夏休み中に小学生が議会を訪れて議場を見学したり、予定が合えば議長や副議長とも会って話もできるなどの試みも行っている。

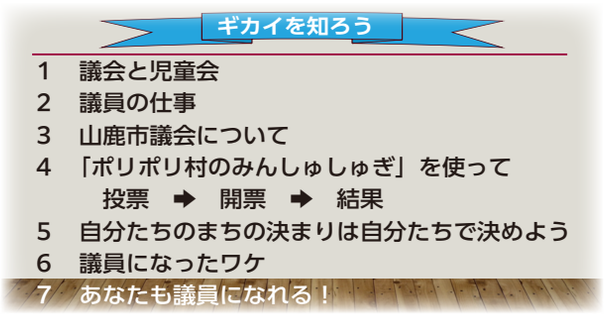
　我々も主権者教育はまだ手探りの状況。主権者の皆さんに色々な事を教えてもらいながら共に考え、学び、歩んでいきたい。

山鹿市「小学生へのシチズンシップ教室」

服部　当市議会では、議会の仕事について市民の理解が得られていないという課題があり、議員のなり手不足についても議会の役割が理解されていないことが要因であると推測。また、投票率の低下にも危機感を抱き、若い世代の投票率を上げなければ更に低下すると予測し、子どもの頃から政治に主体的に関わることの重要性を理解してもらうことが大事だと感じた。

　そこで、市議会について知ってもらうことを目的に、小学校へ出向いてシチズンシップ教室を開催。議員の仕事や議会の役割、選挙の意義などについて説明した。

　更に、地域の読み聞かせボランティアの方々にも協力してもらい、子どもたちの投票結果によって展開が変わる絵本「ポリポリ村のみんしゅしゅぎ」を使って投票の大切さや政治と暮らしは密着していることを学んでもらった。



　授業を受けた子どもたちからは、「議員の仕事が良く分かった」「1票の大切さを知れた」「地域のために頑張っている人がいることを知れた」などの好意的な感想が寄せられ、議会への理解が進んだ。

　また、協力いただいた読み聞かせボランティアの方々には各地で本市議会の取組を広めていただき、議会のイメージアップにも繋がった。

　民主主義は一朝一夕には育まれないもの。子どもの頃からの主権者教育を通じてそれを身につけることでなり手不足解消、政治への関心の高まりに繋がると思っている。

河村　お三方は、主権者教育とは言っても一方的に教えるだけではなく学び合ったり、さらに情報公開や公聴など、開かれた議会につながる取組を行っている。選挙権年齢より下の世代の子どもたちにも耳を傾け議論する、そのような取組こそが主権者教育だという形で取り組まれており、主権者教育とは我々の考える「教育」とは異なることが見えてくる。

　しかし、それぞれの取組にやはり成果もあるが課題もあると思うので、そこをもう少し深掘りをしていきたい。ご意見いただければ。

シチズンシップ教育で使用した絵本（山鹿市議会）

取組の成果と課題

白鳥　高校生から「議員と意見交換する大切さをを知った」との感想や、今度は意見交換の場を議員からだけではなく自分たちから呼びかけたいという積極的な意見もいただいた。

　また、意見交換会に参加した高校生から市の子育て環境の改善に関する請願を出していただき、全会一致で採択、市長部局に提案した。

　他にも高校校舎の避難所としての活用や通学路の街灯増設、高校の最寄り駅での再開発に伴う若者の居場所づくりなど多くの提案をいただいた。こうした生徒たちからの声は議会を通じて執行部に改善の提案をしており、このように生の声で様々な改善が図られることが一つの成果ではないかと考えている。

　議会に対する意見としては、議会だよりやSNS活用など議会の情報発信の強化、議事録の読みやすさ向上などについて提案をいただいた。

　議会としても若者の意見を取り入れるように様々な工夫を行っており、実現に向けて取り組んでいる。

諸岡　「ワイ！ワイ！GIKAI」では、参加した議員がローテーションで生徒と対話し、様々な議員と意見交換できるようにしており、議員のイメージが一つに固まることなく、様々な考えをもった議員がいるということを理解してもらえた。

　また、昨年は有権者ではない市内の大学の外国人留学生を対象に開催したが、市の掲示物について「丁寧な日本語は逆に分かりにくい」など、日本人だけの視点ではわからないことを知ることができ、非常に勉強になった。

服部議長（山鹿市）

　議員も若者も一つの塊ではなくそれぞれ一人ひとり違う。ひとかたまりで捉えてしまうと声の大きい、またはリーダーの意見しか入ってこない。一人一人の声を聴いて吸い上げる姿勢を議会が見せることによって、有権者が政治に目を向けるのではないか。

　主権者教育もただ決まったことを教えるのではなく、相手の望むことを可能な限り実現させていくスタンスを強めていくことが必要だと感じた。

服部　小学生へのシチズンシップ教育では投票結果で展開が変わる絵本を使用したが、一部のクラスでは理路整然とした発言をする生徒に大半が引っ張られ、投票結果が大きく偏ってしまう事態が起きた。「あの子がこう言うから、みんながこう言うから本心と違う方に投票してしまった」という児童もいた。そのように周囲の意見と自分の意見の狭間で揺れるような体験もきっと心に残ると思うし、民主主義を学ぶ過程では必要ではないかと思っている。

　また、今後の主権者教育では、ルールを作る体験も取り入れていきたい。

　主権者教育において、議員が自分の言葉でやりがいを語り、仕事の体験を語ることは議員にしかできない。シチズンシップ教育で訪れた学校では、議員に会ったことがない児童がほとんどだった。実際に議員に会うだけでも「政治に触れる」という体験の一つになっているのではないか。

　また、多くの児童たちがシチズンシップ教育の授業について、家に帰ってから家族に話していることがわかった。彼らが家族と投票について話していてくれれば、それが政治参加への第一歩になるはず。

　主権者教育は広報・広聴の究極とも言われる。子どものうちから民主主義の仕組みを学び、体験することを重要視して取り組んでいきたい。

今後の展望・提言

河村　ここまでそれぞれの事例の話をしていただいたが、最後に知識・経験を共有していく上で、今後どのように主権者教育を展開していけば良いか、提言・ご意見を伺いたい。

白鳥　伊那市では毎年、中学二年生を対象に「中学生キャリアフェス」という地域の企業や団体を知り、中学生が将来の進路について考え、また地元就職について検討するきっかけを狙ったイベントを開催している。

　本市議会も昨年から出展しており、生徒たちの興味のあるものを題材に選挙を行う「中2興味ある選挙」を開催しているほか、中学生と議員との懇談、市議会の役割等に関する冊子の配布なども行っている。

中学生キャリアフェスでの議員との懇談（伊那市）

意見交換会に参加した高校生から伊那市議会への提案

1. 災害時に高校校舎を避難所へ使用する提案
   ➡ 市教委を通じて県教委へ今後の検討課題に
2. 市の子育て環境改善の請願
   ➡ 本会議で全会一致で採択
3. 通学路の安全のため街灯増設の提案
   ➡ 担当常任委員会で現地確認、執行部へ改善要望提出

近年、伊那市では市議選での立候補者が増えている。平成30年の選挙では無投票だったが、令和4年の際は定数21人に対し27人が立候補した。議会を活発化し、市民に理解をいただき、身近に感じてもらえるような活動を今後も進めていきたい。

諸岡　四日市市議会としての見解ではなく、あくまで私個人の発言だが、主権者教育とは模擬投票だけではなく、なり手不足への対応として立候補体験のような取組が進んでいくといいのではないかと思う。また、市が主催する政党色の無い政治塾のようなものがあるとよいのでは。

自分が政治の中に入って、その楽しさ、素晴らしさを体験し、こういう風に世の中を変えられるんだと感じてもらうような取組がもっと進んでいってもよいのではないかと考えている。

また、四日市市の高校生議会では学生たちの中から高校生議長に立候補いただき、当日の議長を決めているが、その議長選の際にも素晴らしい演説をしていただいている。

高校生議長から意見書提出（四日市市議会）

立候補して当選した学生にも、落選した学生にもいい経験になっているのでは。

政治の中に入っていただくことにいかに取り組んでいけるか、これが重要ではないかと思う。

服部　市の主権者教育の取組を小学校だけではなく中学校にも広げていきたい。内容は全く違ったものを考えており、例えば中学校の校区の地図を使って「校区の中に公園を作るならどこが良いか」など、予算なども考えながら具体的なまちづくりの過程を取り入れたい。また、周りをどう巻き込んでいくかも一つのポイントになると思っている。

今後の本市の将来世代に向けた主権者教育は小・中・高と継続することが大事だと思っている。議会の取組もまた同様に継続が必要であり、今後は議会の改選などがあっても継続できる仕組みを作っていかねばならないと感じている。

結びに

河村　主権者教育とは、単に投票のやり方を教えるのみに限らず、次の世代に民主主義を引き継いでいく活動だということが本日の課題討議で見えてきたかと思う。

各地域の置かれている状況、自治体の事情に合わせて挑戦することを主権者教育でも行っていただければ。

一方、世論調査によると、地方自治体で意思決定を行うのが首長だと思っている方が非常に多く、主権者教育の一環として二元代表制の意味について伝える場も必要ではないか。是非作っていただければと思う。

四日市市の取組にもあった、多様な層の若者の意見を聴き、また若者に限らず政策課題ごとにそれぞれの集団の意見を聴くということは、多様な意見を確保できるということ。この仕組みを使えば、就職・進学を機に県外へ出て行ってしまうような方々の意見を聴くことも可能なのではないか。

主権者教育の枠組みを使って多様な意見を集約することも可能なのではという将来性を見せていただいたと思うので、非常に有意義な時間だった。

共同編集：全国市議会議長会・全国町村議会議長会

議員研修誌　月刊　**地方議会人**　2024 11

A4判・68頁・定価831円（年間購読料 9,972円）

特　集

地方議員と地域との「新しい関係」をどう考えていくか

巻頭言　地方自治に思う
これからの地方議会に求められるもの
地域マネジメントの視点の重要性
西南学院大学法学部教授　勢一智子

■ 特集
▶ 議員のなり手不足解消と地方創生をともに達成するためには？
関東学院大学法学部教授/社会構想大学院大学特任教授　牧瀬稔
▶ 地域コミュニティの見つめ直しが議会・議員を育てる
元長野県飯綱町議会議長/地域政策塾21代表　寺島渉
▶ 「地域おこし協力隊」の地方議会進出 「協力隊出身議員」から始まる地方創生
徳島大学大学院社会産業理工学研究部教授　田口太郎

■ 議員レポート
▶ 広島県三次市／地方政治にグローバルな視点を　Think Globally,Act Locally
広島県三次市議会議員　徳岡真紀
▶ 滋賀県竜王町／これからも「地域おこし」！　地域おこし協力隊で知った地域の力
滋賀県竜王町議会副議長　中村匡希
▶ 徳島県松茂町／スポーツによる地域の活性化を!
徳島県松茂町議会議員　川端順
▶ 熊本県合志市／海外での経験を地元に活かす　JICA海外協力隊から地方議会議員へ
熊本県合志市議会議員　中元緑

「月刊 地方議会人」デジタルブック
サンプル版はじめました！
▶▶ サンプル版はこちら！

「月刊 地方議会人」サンプル版ではデジタルブックで地方議会議員・議会事務局の方々に好評の特集、現地報告各3本、連載3本を「無料」で読むことができます！
デジタルブックサンプル版の内容は下記のとおりです。

■ 特集
▶ 議員の「なり手不足」問題と議員定数・議員報酬／辻陽
▶ 女性の立場から「なり手不足」を考える／益子純恵
■ 現地報告
▶ 秋田県能代市議会／鍋谷暁（能代市議会議員）
▶ 北海道栗山町議会／齊藤義崇（栗山町議会副議長）
■ 連載
【広報・研修資料】
▶ 議会広報紙を見やすく、わかりやすく／佐久間智之
【地方議会最前線】
▶ 岡山県井原市議会／林紀之
【職員研修講座】
▶ 地方議会事務局Q&A／吉田利宏

お問合せ　株式会社　中央文化社　TEL 03-3264-2520　FAX 03-3264-2867　https://chuobunkasha.com/

来年に開催される第20回研究フォーラムは、令和7年8月27、28日に札幌市で開催の予定。研究フォーラム1日目の終わりに、次期開催地の札幌市議が登壇し、北海道市議会議長会からのメッセージ映像等を交えながら札幌市の魅力を紹介した。

2022年8月1日、

市制施行100周年を迎えた札幌市。市制施行当時（1922年）人口は12万7000人だったが、近隣市町村の合併・編入や1972年の冬季オリンピック開催を経て同年4月1日、政令指定都市へ移行。社会資本整備や民間投資の加速化に伴い、人口197万人の都市に発展した。

飯島議長（札幌市）

次期開催地あいさつに立った飯島弘之市議会議長は「札幌市の魅力と言えば、自然と都市の調和。緑が多く自然が豊かで都市機能が集積しており、会社帰りにスキーを楽しめることも魅力の一つ。また、観光地としての魅力も豊富で、市民の憩いの場である大通公園では、毎年2月のさっぽろ雪まつり、6月のYOSAKOIソーラン祭り、9月のさっぽろオータムフェストなど、イベントを通じて多くの観光客が訪れ、札幌の魅力を感じている」と紹介。「北海道部会全35市、オール北海道で力を合わせて皆様方をお迎えしたいと思っております。190万人の札幌市民とともに議員一同、皆様方をお待ちをしております」と研究フォーラムへの参加を呼びかけた。

北海道市議会議長会の会員全35市は、皆様のご訪問を心より歓迎いたします。

北海道内各市では、従来からの食や観光のブランド力に加えまして、最近では、洋上風力やバイオマス発電など再生可能エネルギーによる脱炭素化、さらには、次世代半導体やデータセンターに代表されるデジタル産業の集積といった取り組みにより、更なるブランド力の強化が進んでおります。

来年8月の札幌開催の折には、せっかくの機会ですので、こうした活発な取り組みを進める北海道各市にも、ぜひお立ち寄りいただければ幸いです。

魅力あふれる個性的な35市が皆様をお待ちしております。

研究フォーラム in 盛岡

閉会式

閉会式では、坊恭寿会長（神戸市）をはじめ、副会長が登壇し、第19回研究フォーラムin盛岡の閉会にあたって、感謝の意を表した。

副会長を代表して畑中優周副会長（釧路市）が「研究フォーラムが、かくも盛大に、そして成功裏に終わることができました。ひとえにご参加の皆様方に温かく受け入れていただいた地元盛岡市議会の多大なるご尽力の賜物」と御礼の意を表すとともに、次回、札幌市で開催される第20回研究フォーラムへの参加を呼びかけ、「第19回研究フォーラムin盛岡」の幕を閉じた。

写真左から平田文彦副会長（高知市議会議長）、畑中優周副会長（釧路市議会議長）、坊恭寿会長（神戸市会議長）

写真左から小島正泰副会長（熊谷市議会議長）、松野久郎副会長（白石市議会議長）、竹山聡副会長（一宮市議会議長）

畑中議長（釧路市）

能登半島9月豪雨 激甚災害指定

政府は、9月20～23日に能登半島を中心に発生した豪雨について激甚災害として指定する政令を10月25日に閣議決定、30日に公布・施行した。

同政令により、農地や公共土木施設などの災害復旧事業が支援される。

また、輪島市については局地激甚災害の対象とされ、事業再建を図る中小企業等への支援も行われる。

第10回 建設運輸委員会 委員長市紹介

釜石市

ラグビーワールドカップ2019™　釜石開催の様子
（写真提供＝釜石市）

【市の概要】

▽**人口**　2万9168人（令和6年9月30日）

▽**面積**　440・35㎢

▽**歴史・沿革**　本市は岩手県沿岸南部に位置しており世界三大漁場の一つである北西太平洋漁場の一角をなす三陸漁場と典型的なリアス式海岸を持ち定置網漁や養殖業も盛んである。1857年には国内で初めて鉄鉱石を原料とする洋式高炉で出銑に成功するなど近代製鉄発祥の地として栄えてきた。平成27年には本市橋野鉄鉱山を構成資産に含む「明治日本の産業革命遺産　製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の世界遺産登録が決定し来年で登録10周年を迎える。

▽**シンボル**　市章は、中央はカマ（釜）を表し、輪郭は海の防波堤や鉄を表しており、みなと釜石と鉄都を表徴するとともに、本市の振興発展を意味している。市の花は「はまゆり」、市の木は「たぶのき」、市の鳥は「オオミズナギドリ」。

市　章

【議会の概要】

▽**議員定数**　18人（現在男性16人、女性2人）

▽**前回選挙**　令和5年9月3日、立候補21人、投票率65・51％。

▽**議会トピックス**　当市議会では昨年9月に市議会議員選挙が執行され、5名の新人議員が当選した。若手議員が増え、活発な議論が交わされている。

また、「市民と語る会」を市内各所で実施するなど、開かれた議会を目指し、継続的な議会改革に取り組んでいる。

議長の話

千葉 榮 議長

釜石市は、岩手県の美しい自然と豊かな歴史が融合する三陸海岸に位置するまちです。ラグビーワールドカップ2019™では、東日本大震災からの復興を目指す姿を全世界に発信しました。近年では、地域資源を活用し、観光と学びを融合させた持続可能な観光を目指し、市全体を「屋根のない博物館」と見立てた「釜石オープンフィールドミュージアム構想」の取組を進めています。

自然、歴史、スポーツ、文化のレガシーを感じる当市に、ぜひ一度訪れて、その魅力を体感してください。